

下水道排水施設工事（稲毛海岸雨水 7－1）

特 記 仕 様 書

千葉市 建設局 下水道施設部
雨水対策課

総 則

(適用)

- 第1条 この特記仕様書は、「千葉市土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。
- 2 この工事の施工にあたっての一般的事項は共通仕様書による。
- 3 この工事の設計図書に定めのない工事関係書類は、「土木工事書類作成マニュアル」による。
- 4 この特記仕様書に記載している要綱、要領、基準書等は最新のものによる。

(監督職員)

- 第2条 監督職員とは、「千葉市建設工事工事請負契約約款」（以下「契約書」という。）第9条の規定による者であり、「千葉市工事執行規則」第12条の規定に基づき、総括監督員、主任監督員及び監督員とする。

なお、本工事の監督職員は、「千葉市土木工事監督事務処理要領」第8条の規定に基づき、契約締結後、受注者へ速やかに通知する。

(工事用地等の使用)

- 第3条 用地境界杭には十分注意し施工すること。また、境界杭を破損した場合は責任をもって対処すること。

(施工体制台帳及び施工体系図)

- 第4条 工事を施工するために下請負契約を締結した場合、その額にかかわらず、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律及び建設業法に基づき、施工体制台帳及び施工体系図を作成しなければならない。

施工体制台帳は、工事現場に備えるとともに、その写しを監督職員に提出しなければならない。

施工体系図は、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲示しなければならない。施工体系図には、警備会社の会社名、現場責任者名、工期を記載すること。

なお、施工体制台帳は、以下の項目を記載しなければならない。

- (1) 建設業法第24条の7第1項及び建設業法施工規則第14条の2に掲げる事項
- (2) 安全衛生責任者名、安全衛生推進者名、雇用管理責任者名
- (3) 健康保険等の加入状況
- (4) 外国人技能実習生及び外国人建設就労者の従事状況
- (5) 作業員名簿

（建設副産物の処理及び再生資材の利用）

第5条 建設副産物の処理及び再生資材の利用については、次の各号による。

共通事項

- 1) 「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成する場合は、「コブリス・プラス」により作成し、発注者に説明のうえ施工計画書に含めて提出すること。

受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

また、計画の実施状況（実績）については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」を同システムにより作成し提出すること。併せて、「コブリス・プラス工事登録証明書」を同システムから出力し提出すること。

- 2) 500 m³以上の建設発生土を搬出しようとする場合、搬出先が盛土規制法の許可地であるなど適正であることの確認や発注者等が行った土壌汚染対策法等の状況等の確認を行い、確認結果票を発注者に説明のうえ施工計画書に含めて提出すること。

受注者は、法令等に基づき、確認結果票を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

また、建設発生土を搬出先へ搬出したときは、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、搬出先が再生資源利用促進計画と一致することを確認するとともに、受領書の写しを保存すること。

- 3) 建設副産物を処理する工事については、「建設副産物処理承認申請書」（副処：様式—1）を作成するとともに、搬出経路図、建設廃棄物処理委託契約書の写しを添付し、施工計画書に含めて監督職員へ提出すること。
- 4) 建設副産物の処理完了後、速やかに「建設副産物処理調書」（副処：様式—2）を作成するとともに、処理が完了したことが分かる資料（取引証明書、受入伝票等）を添付し、監督職員へ提出すること。
- 5) 受注者は、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により建設廃棄物の適正な処理を確認するとともに、監督職員から請求があった場合に、速やかに提示できるよう常に整理しておくこと。

2 建設発生土

本工事により発生する建設発生土【稲毛海岸工区】（213.6 m³）は、千葉県市原市大桶上大月、片道運搬距離26.8 kmの山喜興業株式会社、【黒砂工区】（14.4 m³）は、千葉県市原市大桶上大月、片道運搬距離25.6 kmの山喜興業株式会社に搬出するものとする。

なお、詳細については監督職員の指示によるものとする。

工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

3 路盤廃材

本工事により発生する路盤廃材【稲毛海岸工区】（110 t）は、千葉県千葉市稲毛区六方町 205、片道運搬距離 7.9 km の前田道路(株)、【黒砂工区】（70 t）は、千葉市稲毛区六方町 258-1、片道運搬距離 6.9 km の（株）NIPPO 千葉合材工場、【幕張本郷工区】（4 t）は、習志野市茜浜 1-14-1、片道運搬距離 4.5 km の三宝建設(株)に運搬し、処理するものとする。

4 建設廃棄物

本工事により発生する

- 1) アスファルト塊【稲毛海岸工区】（117.5 t）は、千葉県千葉市稲毛区六方町 205、片道運搬距離 7.9 km の前田道路(株)、【黒砂工区】（47.0 t）は、千葉市稲毛区六方町 258-1、片道運搬距離 6.9 km の（株）NIPPO 千葉合材工場、【幕張本郷工区】（2.4 t）習志野市茜浜 1-14-1、片道運搬距離 4.5 km 三宝建設(株)に運搬し、処理するものとする。
- 2) コンクリート塊（無筋）【稲毛海岸工区】（51.7 t）は、千葉県千葉市稲毛区六方町 205、片道運搬距離 7.9 km の前田道路(株)、【黒砂工区】（2.35 t）は、千葉市稲毛区六方町 258-1、片道運搬距離 6.9 km の（株）NIPPO 千葉合材工場に運搬し、処理するものとする。
- 3) コンクリート塊（有筋）【稲毛海岸工区】（22.5 t）は、東金市小野字大原 496-2、片道運搬距離 28.7 km の（有）地引組に運搬し、処理するものとする。
- 4) 建設発生木材【稲毛海岸工区】（2.5 m³）は、千葉県千葉市花見川区犢橋町 2068-13、片道運搬距離 7.1 km の丸徳興業(株) 千葉北リサイクルセンターに運搬し、処理するものとする。
- 5) 舗装版切断作業時に発生する濁水【稲毛海岸工区】（計 1,952 リットル）は、八千代市吉橋字内野 1075-9、片道運搬距離 15.4 km の千葉丸辰道路（株）、【黒砂工区】（計 313 リットル）は、八千代市吉橋字内野 1075-9、片道運搬距離 16.3 km の千葉丸辰道路（株）、【幕張本郷工区】（計 44 リットル）は、八千代市吉橋字内野 1075-9、片道運搬距離 10.8 km の千葉丸辰道路（株）に運搬し、処理するものとする。

（現場条件及び工法により濁水の回収が困難な場合は、監督職員と協議するものとする。）

なお、運搬に先立ち受入条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。

5 土質改良土

土質改良に用いる建設発生土【稲毛海岸工区】（1, 290 m³）は、八千代市下高野 341-1、片道運搬距離 17.3 km の北新建設㈱ 下高野土質改良プラント、【黒砂工区】（22.8 m³）は、八千代市下高野 341-1、片道運搬距離 16.5 km の北新建設㈱ 下高野土質改良プラントへ搬出するものとする。

なお、土質改良プラントにて安定処理された改良土の品質基準については、「埋戻しに使用する材料の品質及び品質管理基準」（千葉市）によるものとする。

また、現場において安定処理された改良土の品質基準については、「千葉市土木工事施工管理基準」によるものとする。

なお、運搬に先立ち受け入れ条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。

工事発注後、事情により上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

（建設発生土の搬出先への情報提供）

第6条 受注者は、本工事から市外へ建設発生土を100 m³以上搬出する場合は、別紙様式により搬出前に搬出先市区町村の建設発生土担当窓口あてに建設発生土に関する下記の情報を郵送・FAX等で提出しなければならない。

なお、情報提供後速やかにその写しを監督職員に提出しなければならない。

- （1） 工事件名、工事概要、工事場所
- （2） 工事発注機関名、工事発注機関監督職員名、連絡先
- （3） 受注者名、現場代理人名、連絡先
- （4） 建設発生土の運搬業者名
- （5） 建設発生土の受け入れ先名（搬出先事業所名等）、住所
- （6） 建設発生土の発生場所から受け入れ地までの運搬経路
- （7） 建設発生土の搬出時期（搬出期間）
- （8） 建設発生土の土質（砂、ローム等）、土量（m³）

（建設リサイクル法）

第7条 建設リサイクル法の処理については、次の各号によるものとする。

- （1） 特定建設資材の分別解体等・再資源化等の適正な措置

① 本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）以下「建設リサイクル法」という。）に基づく対象建設工事であり、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

契約書第64条 解体工事に要する費用等については、契約締結時に発注者と受注者の間で確認される事項であるため、発注者が条件明示した事項と別の方法であ

った場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

- ② 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条の規定に基づき、「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準（平成30年7月）」に定めた様式3「再資源化等報告書」を監督職員に提出することとする。

なお、「再資源化等報告書」に添付する「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」は「コブリス・プラス」を用いて作成したものを使用するものとする。

(2) 請け負おうとする建設業者からの事前説明に関する事項

- ① 建設リサイクル法第12条で、対象建設工事を請け負おうとする建設業を営むものは、発注者に対し、対象建設工事の届出に関する事項を記載した「説明書」（様式2）を提出し説明を行うこととする。
- ② 「説明書」の提出は、契約に先立って行うこととする。

（産業廃棄物の収集又は運搬に伴う運搬車両の表示）

第8条 産業廃棄物を自ら収集又は運搬する場合は、運搬する車両の車体の両側に、以下の事項を鮮明に表示すること。

- (1) 産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する旨の表示
(産業廃棄物運搬車 等)

文字の大きさ：140ポイント（約5cm）以上

- (2) 排出事業者名（〇〇株式会社 等）

文字の大きさ：90ポイント（約3cm）以上

なお、車体に直接塗料を用いる方法や、マグネットシート等による着脱式の標章を用いて行う方法とし、識別しやすい色の文字とする。

また、収集運搬車両の表示状況が確認できる写真を撮影すること。

（材料の立会調合）

第9条 現場練コンクリートは、監督職員立会のうえ、調合しなければならない。

（段階確認）

第10条 受注者は、下記の工種の施工段階においては、段階確認を受けなければならない。この際、受注者は、工種、細別、確認の予定時期を監督職員に報告しなければならない。

ただし、段階確認の実施時期及び実施箇所は監督職員が定めるものとする。

種別	細別	施工段階（確認時期）
開削工 （下水道工事）		埋戻し前

（社内検査）

第 1 1 条 本工事は、「千葉県請負工事検査要綱」第 1 2 条に定める社内検査対象工事である。実施に際しては、別に定める「社内検査実施指導要領」に基づき実施するものとする。なお、社内検査員は、原則として、検査に立ち会うものとする。

（中間技術検査）

第 1 2 条 当初請負金額が 1 億円以上かつ工期 6 ヶ月以上の工事に該当した場合は中間技術検査の対象工事とし、実施回数及び実施時期（施工段階）は当該工事の主要工種を考慮し、別途指示するものとする。

- 2 本工事が「千葉県建設工事低入札価格取扱要領」に基づく調査において、履行可能と判断し契約締結をした工事（以下「低入札工事」という。）に該当した場合は中間技術検査の対象工事とし、前項の実施回数及び実施時期で行うことを原則とするが、監督員と検査員の協議により決定する。
- 3 中間技術検査で確認した出来形部分については、完成検査及び既済（完済を含む）部分検査時の確認を省略することができる。ただし、その後の現場状況の変化や受注者の管理状況等から再度の技術確認が必要な場合はこの限りではない。
- 4 中間技術検査は、検査日までに完成した出来形部分について、技術的確認を行うが、給付の対象とはしない。

（施工管理）

第 1 3 条 本工事の施工管理は、「千葉県土木工事施工管理基準及び規格値」によるものとする。なお、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。

- 2 本工事の写真管理は、「千葉県土木工事写真管理基準」によるものとする。

（施工中現場への安全パトロールについて）

第 1 4 条 工事期間中に、「千葉県建設工事安全対策委員会設置要綱」、「千葉県建設工事安全対策委員会運営要領」及び「下水道部事故防止巡回班規約」に基づく、下水道部事故防止巡回班の安全パトロールが実施される場合、または、その他臨時に安全パトロールが実施される場合は、当該パトロールに協力するものとし、また、危険箇所

及び作業等の改善すべき事項が指摘された場合は、速やかに改善を図るものとする。

(工事中の安全確保)

第15条 工事の施工に当たっては、「道路工事保安施設設置基準」及び「道路工事現場における標示施設等の設置基準」に基づき適切な交通管理及び標示施設の設置を行うものとする。ただし、これにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。

2 工事期間中は、夜間における安全確保のため保安要員を巡回させ、道路灯、バリケード等保安施設の保安点検を行うものとする。

3 工事期間中に配置する交通整理員は、交代要員を含め下記のとおりとする。

【稲毛海岸工区】

	昼間作業	夜間作業	備考
交通誘導員（有資格者）	—	—	—
交通誘導員（有資格者以外）	282人	—	交代要員あり

【黒砂工区】

	昼間作業	夜間作業	備考
交通誘導員（有資格者）	4人	18人	交代要員あり
交通誘導員（有資格者以外）	—	36人	交代要員あり

【幕張本郷工区】

	昼間作業	夜間作業	備考
交通誘導員（有資格者）	—	—	—
交通誘導員（有資格者以外）	3人	—	交代要員あり

※「交代要員あり」とは、休憩・休息時間についても交通誘導を行う場合

ただし、交通管理者との協議条件等により配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

4 地下埋設物等に影響を与える恐れのある箇所については、埋設物等の管理者と協議し、必要に応じて、試掘及び埋設物等の防護の実施について監督職員と協議するものとする。

5 施工にあたっては、千葉市建設工事等安全対策委員会が定める「安全対策重点項目」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。

なお、別途監督職員が指示する「令和8年度の安全対策重点項目」について、工事関係者が見やすい場所に掲示するものとする。

(安全管理計画)

第16条 局地的な大雨に対する安全対策について下記事項を適切に実施すること。

注意報、警報などの気象情報を工事中止判断に活用するため、現場代理人及び協力会社

の主任技術者（または、監理技術者）は、「ちばし安全・安心メール」への登録を行うこと。

（１）大雨に関する注意報発令後、流域内で降雨が確認された場合は、作業を中止すること。

（２）大雨に関する警報が発令された場合は、作業を中止すること。

（３）上記をふまえた上で現場特性を把握し、大雨時の安全管理計画を施工計画書に明記し、その内容について、作業員への周知徹底を図ること。

①現場特性の事前把握

②工事等の中止基準・再開基準の設定

③迅速に退避するための対応

④日々の安全管理の徹底

（気象情報の入手）

第１７条 雨水管や合流管などの降雨を受ける管路内で作業を実施する工事については、流域内の降雨による増水に対応する手段として、気象情報の具体的な入手方法を計画し、前条の安全管理計画とあわせ施工計画書に明記すること。

（１）情報の入手元

（２）現場での入手方法

（３）情報入手回数（朝昼晩などの１日３回以上、自動受信登録などリアルタイムに受信する等）

（安全管理について）

第１８条 下水道のマンホール、管渠等（労働安全衛生法施行令第２１条第９号（別表第６）に掲げる作業場）における作業を行う場合は、酸素欠乏症等防止規則に基づき、事故防止に必要な措置を講ずるとともに酸素及び硫化水素の濃度を測定し、以下の項目について記録、保存するものとする。

１ 測定日時

２ 測定方法

３ 測定箇所

４ 測定条件

５ 測定結果

６ 測定を実施した者の氏名

７ 測定結果に基づいて酸素欠乏症等の防止措置を講じたときは、当該措置の概要

（天災対策）

第19条 地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。

（法定外の労災保険の付保）

第20条 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

（事業損失防止施設）

第21条 工事施工期間中は、施工箇所に近接する施設の計測管理を随時行うとともに、常に計測記録を整備し、監督職員から請求があった場合は、速やかに提出しなければならない。ただし、変位等が著しい場合は、直ちに工事を中止し、応急の措置をとるとともに、監督職員に講じた措置等を報告しなければならない。

2 工事施工期間中沿道に被害があった場合には、速やかに状況を調査し、監督職員に報告しなければならない。

（過積載による違法運行の防止）

第22条 受注者は、工事の施工にあたっては、次の各号を遵守するものとする。

- （1）積載重量制限を越えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- （2）さし柢装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
- （3）過積載車両、さし柢装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載等を助長することのないようにすること。
- （4）取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし柢装着者、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- （5）建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
- （6）以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

（現場環境改善費）

第23条 現場環境改善費は、現場環境改善及び地域連携地域に関するものとし、現場労働者の作業環境の改善や周辺住民の生活環境への配慮並びに一般住民への建設事業の広報活動を行うために実施するものであり、建設業の健全な発展や公共事業の円滑な執行に資することを目的とする。受注者は施工に際し、この趣旨を理解し監督員と協議して労働環境の改善、地域との相互理解等について状況に合わせた創意工夫を発揮し、適正な現場環境改善計画を策定し実施するものとする。

2 現場環境改善の具体的内容は、次表の内容のうち計上費目ごとに1内容（いずれか1

費目のみ2内容)を選定するものとする。

計上費目	標準的实施内容
現場環境改善 (仮設備関係)	1 用水・電力等の供給設備、2 緑化・花壇、3 ライトアップ設備、 4 見学路及び椅子の設置、5 昇降設備の充実、6 環境負荷の低減
現場環境改善 (営繕関係)	1 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む)、2 労働者宿舎 の快適化、3 デザインボックス(交通誘導員待機室)、4 現場休息所 の快適化、5 健康関連設備及び厚生施設の充実等
現場環境改善 (安全関係)	1 工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等)、 2 盗難防止対策(警報機等)
地域連携	1 完成予想図、2 工法説明図、3 工事工程表、4 デザイン工事看 板(各工事PR看板を含む)、5 見学会等の開催(イベント等の実施を 含む)、6 見学所(インフォメーションセンターを含む)の設置及び管 理運営、7 パンフレット・工法説明ビデオ、8 地域対策費等(地域行 事等の経費を含む)、9 社会貢献

- 3 現場環境改善についての具体的な内容、実施時期について施工計画書に含め提出するものとする。
- 4 工事完了時には、現場環境改善の実施写真を提出するものとする。

(創意工夫)

第24条 受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了までに「千葉市工事成績評定要領」に定める別紙ー10により提出することができる。

(環境対策)

第25条 本工事の施工にあたっては、騒音及び振動には十分注意し低騒音・低振動型建設機械を使用すること。また、近隣住民の迷惑にならないように留意すること。

- 2 舗装版切断・破砕作業においては、次の各号によるものとする。
 - (1) 舗装版切断作業においては、騒音防止を施した機械を用いること。
 - (2) 舗装版取り壊し材の二次破砕作業を現場内で行わないこと。
 - (3) 舗装版破砕作業にあたっては、油圧ジャッキ式舗装版破砕機を使用するものとする。なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議のうえ、必要に応じて設計変更の対象とする。
- 3 水替工については、次の各号によるものとする。
 - (1) 工事用排水の処置について、公共下水道の使用に関する手続きは、受注者が行うものとする。

- (2) 工事排水にあたっては、工事場所付近に沈砂層等を設けて水質基準を確保して既設の公共下水道に排水するものとする。なお、これにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。
- (3) 下水道の使用数量は下水道管理者から測定並びに認定を受けるものとする。なお、下水道使用料金については設計変更の対象とする。

(環境配慮依頼)

第26条 本工事は、環境負荷を低減するため、下記のとおり環境へ配慮し、実施するものとする。

1 資材・廃土運搬時の環境配慮

- (1) 過積載の禁止、最短ルートを選択及び適正運転方法等を定めた「貨物自動車使用管理マニュアル」等を作成し、従業員に徹底する。
- (2) 騒音・振動の軽減に努める。
- (3) 夜間及び早朝の住宅地周辺の走行を極力避ける。
- (4) 渋滞時間帯の走行運搬を避ける。
- (5) 違法駐車及び積荷の落下等により、車の流れを阻害しないよう十分注意する。
- (6) 急発進・急加速を避ける。
- (7) アイドリングストップを励行する。
- (8) 車両の点検整備を適正に行う。
- (9) 車両の購入又は更新の際には、できる限り低公害型車両を導入する。

2 工事実施時の騒音・振動の低減への配慮

- (1) 工事計画の策定にあたり、工事現場の周辺状況等を調査の上、低騒音・低振動の工法及び建設機械の採用に努める。
- (2) 工事の施工にあたり、周辺住民に対して、予め工事の概要、作業時間、作業期間及び騒音・振動防止対策について十分説明し、理解を得る。
- (3) 周辺住民に対して苦情処理の責任者を明確にし、苦情には速やかに誠意をもって対処する。
- (4) 騒音・振動を伴う作業は、日曜、祝日等の休日及び早朝、夜間には、原則として行わない。
- (5) 重機の搬出入、時間待ち車両のエンジン音、作業員の話し声及びラジオ等により、周辺住民に迷惑をかけないように配慮する。

3 基礎工事実施時の地下水汚染及び土壌汚染防止への配慮

- (1) 地下水汚染の原因となる物質を適正に管理する。
- (2) 過去の土地利用状況からみて土壌汚染の恐れがないかを調べ、必要な場合は条例、要綱等に基づき、調査、報告書の提出及び土壌汚染対策を実施する。

4 建設副産物の発生抑制及び再利用の推進

(1) アスファルト・コンクリート塊及びコンクリート塊に関して

- ア 再生資源利用〔促進〕計画に基づくリサイクル原則化ルール of 徹底を図る。
- イ 現場での不要物の除去を徹底し、再資源化施設への全量排出を図る。

(2) 建設汚泥に関して

- ア 再生資源利用〔促進〕計画に基づくリサイクル原則化ルール of 徹底を図る。
- イ 現場での脱水等により減量化を図り、排出量の減少を図る。
- ウ 安定処理等により、処理土の工事での利用を図る。

(3) 建設混合廃棄物に関して

- ア 再生資源利用〔促進〕計画に基づくリサイクル原則化ルール of 徹底を図る。
- イ 現場内分別を徹底し、単品としてそれぞれ再資源化施設への搬出を図る。
- ウ 部材のモジュール化、無梱包化、構造物の高寿命化等により、発生量を抑制する。

(4) 建設発生土に関して

- ア 建設発生土の現場内利用に努める。
- イ 土砂を利用する工事における建設発生土の工事間流用 to 努める。
- ウ 建設発生土の搬出先へ情報を提供する。

(工期)

第27条 工期は、雨天、休日及び工事抑制期間等を見込み、契約の翌日から令和9年3月11日迄とする。なお、休日には、日曜日、祝日、年末年始及び夏期休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。 工期には、施工に必要な実働日数以外に以下の事項を見込んでいる。

準備期間	40日間
後片付け期間	20日間
雨休率 ※休日と天候等による作業不能日を見込むための係数 雨休率＝（休日数＋天候等による作業不能日）／実働日数	0.78

2 天候等による作業不能日は以下を見込んでいる。

- イ) 1日の降雨・降雪量が10 mm/日以上の日：39日間／年間
- ロ) 8時から17時までのWBGT 値が31 以上の時間を足し合わせた日数：8日間／年間（少数第1位を四捨五入（整数止め）し、日数換算した日数）
（過去5か年（2021年1月～2025年12月）の気象庁（千葉特別地域観測所）及び環境省（千葉特別地域観測所）のデータより年間の平均発生日数を算出）

3 著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込ん

でいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

（施工時期及び施工時間の変更）

第 28 条 道路管理者の指定する工事抑制期間は、車線規制を必要とする工事を行ってはない。

第 29 条 本工事の作業区分は下表によるものとする。

作業区分	施工区分
昼間作業	夜間作業以外の全ての工事
夜間作業 (時間的制約を著しく受ける場合)	【黒砂工区】 黒砂陸橋側で行う全ての工事及び 調整池側出入口にある道路構造物の 撤去・設置
昼夜間作業	—

ただし、上記区分に変更を要する場合は監督職員の承諾を得るものとする。

（工事支障物件）

第 30 条 本工事区間において地下埋設物が近接する場合は、施工にあたって各企業者に確認及び立会等を行い、慎重に施工するものとする。

企業名	近接・支障物件	備考
千葉県企業局	水道管	工事に伴い施工協議を実施する。
東京ガスネットワーク(株)	ガス管	工事に伴い施工協議を実施する。
NTT 東日本(株)	架空線・電柱	工事に伴い施工協議を実施する。
東京電力パワーグリッド(株)	架空線・電柱	工事に伴い施工協議を実施する。

（低入札工事に対する監督体制）

第 31 条 低入札価格調査制度における基準価格を下回る価格での入札が行われ、調査の結果履行可能と判断され契約した場合には、重点監督対象工事として工事を実施するものとする。

（低入札価格調査制度対象工事における下請負人のしわ寄せ防止）

第 32 条 低入札価格調査制度対象工事において、元請負人と一次下請負人の間で交わされる下請契約について、建設業法に基づく契約であることを確認するため、「下請契約の適正化に関する点検表」に基づき、元請負人、一次下請負人別に点検を行うものとする。

る。点検は、一次下請工事の施工前及び施工後の段階ごとで、一次下請人1者につき、各1回の点検を行うものとする。また、点検結果については、その都度監督員へ提出するものとする。

なお、元請負人、一次下請負人の記載事項に相違があった場合は、監督職員、元請負人の現場代理人、一次下請負人の主任技術者の出席による記載内容の聴取を実施するものとする。

(現場代理人の常駐義務緩和)

第33条 本市が発注する建設工事で、次に掲げる要件のすべてを満たしている場合は、現場代理人を3件まで兼任することができる。

- (1) 請負代金の額が4,500万円（当該建設工事が建築一式工事である場合にあっては、9,000万円）未満であること。
- (2) 低入札価格調査を実施する基準価格（以下「調査基準価格」という。）を下回る価格により落札したものでないこと。
- (3) 特定建設工事共同企業体として契約するものでないこと。
- (4) 兼任する工事が国又は他の地方公共団体発注工事であって、当該工事の発注者から現場代理人の兼任に関して認められていること。
- (5) 兼任する工事の工事箇所が千葉市内に限ること。

(監理技術者の専任義務緩和)

第34条 本工事において、建設業法第26条第3項第2号の規定の適用を受ける監理技術者（以下「専任特例2号による監理技術者」という。）の配置を行う場合は次の各号の要件をすべて満たさなければならない。

- (1) 建設業法第26条第3項第2号による監理技術者の職務を補佐する者（以下「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
- (2) 監理技術者補佐は、主任技術者の資格を有する者（建設業法第7条第2号イ、ロ又はハに該当する者）のうち一級の技術検定の第一次検定に合格した者（一級施工管理技士補）、又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例2号による監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
- (3) 同一の専任特例2号による監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に2件までとする。
- (4) 専任特例2号による監理技術者が兼任できる工事は、本市が発注する建設工事でなければならない。

- (5) 請負代金の額が2億円未満であること。
- (6) 低入札価格調査基準価格を下回る価格により落札し、契約する場合でないこと。
- (7) 特定建設工事共同企業体として契約する場合でないこと。

(ワンデーレスポンスの実施)

第35条 本工事は、ワンデーレスポンス実施対象工事である。

- 2 受注者は計画工程表の提出にあたって、監督員と協議のうえ、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる方法により、無駄を排した最適な工程表を作成すること。
- 3 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

(ウィークリースタンスの実施)

第36条 本工事は、ウィークリースタンス実施対象工事である。実施に際しては、別に定める「ウィークリースタンス実施要領」に基づき実施するものとする。

(契約後VE方式)

第37条 本工事は、契約締結後に施工方法等の提案を受付ける契約後VE方式の試行工事であり、「千葉県契約後VE方式試行要領」により実施するものとする。

「VE提案」とは設計図書に定める工事の目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に対し行う提案をいう。

2 VE提案の範囲

- (1) 受注者がVE提案を行う範囲は、仮設、施工方法その他工事目的物を完成するために必要な手段等が、設計図書に明示又は指定（以下「指定」という。）があるもの及びそれに附帯するもののうち、工事材料及び施工方法等に係る変更により請負代金額の低減を伴うものとし、原則として工事目的の変更を伴わないものとする。
- (2) 以下の提案は、VE提案の範囲に含めないものとする。

ア 工期の延長等の施工条件（施工方法等を除く）の変更を伴う提案

イ 入札時に入札参加資格要件として定めた、同種工事の範囲を超えるような工事材料、施工方法等の変更の提案

ウ 契約書第18条の規定に基づき、条件変更が確認された後の提案

3 VE提案書の提出

- (1) 受注者は、前項のVE提案を行う場合は、VE提案書（別紙様式－1～4）に記載し、発注者に提出しなければならない。

ア VE提案書（別紙様式－1）

イ VE提案項目内容の詳細（別紙様式－２）

ウ VE提案による工事代金額の概算低減額及び算出根拠（別紙様式－３）

エ 工業所有権等の排他的権利を含むVE提案である場合、その取り扱いに関する事項（別紙様式－４）

オ その他VE提案が採用された場合に留意すべき事項（別紙様式－４）

（２）発注者は、提出されたVE提案書に関する追加的な資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。

（３）発注者は、受注者と協議の上、VE提案の提出期限を決定することができる。

（４）VE提案の提出に要する費用は、受注者の負担とする。

４ VE提案の審査

（１）VE提案の審査にあたっては、提出されたVE提案が、施工の確実性及び安全性が確保され、かつ、設計図書に定める工事目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であるかについて審査を行う。

（２）発注者は、受注者から提案内容についてのヒアリングを実施することができる。

５ VE提案の採否等

（１）発注者は、VE提案の採否について、VE提案の受領後１４日以内にVE提案採否通知書（別紙様式－５）により受注者に通知する。ただし、受注者の同意を得た場合は、この期間を延期することができる。

また、提出されたVE提案が適正と認められなかった場合は、その理由を付して通知する。

（２）発注者は、契約後VE対象工事に係る契約書追加条項の規定に基づき設計図書の変更を行う場合は、契約書第１９条の２第３項の規定により請負代金額の変更を行う。

（３）発注者は、VE提案を適正と認めた場合は、VE提案により低減する額（消費税相当額を除く）と請負代金額から消費税相当額を除いた額との割合（別表）により算出される点数を、千葉市が実施する総合評価落札方式（以下「総合評価落札方式」という。）の評価点に加点する。

なお、共同企業体による施工の場合は、構成員ごとの加点を出資比率で按分（別表）し加点する。

（４）加点対象工事は、VE提案採否通知書交付年度の翌年度に入札公告される総合評価落札方式による工事のうち「契約後VE方式の実績」が評価項目で設定されている工事で、かつ、加点された工事と同一業種の工事によるものとする。

（５）VE提案による加点の上限は業種毎に５点とし、加点対象期間は１ヵ年度間とする。

（６）VE提案を採用した後、契約書第１８条の条件変更が生じた場合において、発注者

がV E提案に対する変更案を求めた場合は、受注者はこれに応じなければならない。

なお、この場合においても評価点の加点については、変更しない。ただし、受発注者双方の責に帰することができない事由により、工事の続行が不可能となった場合等は、当該工事で獲得した加点を、V E提案の実績とするか否かについて調整会議に諮る。

(7) 発注者は、V E提案の審査結果に対する不服申し立ては受付けない。

(8) 発注者は、完成通知書を受理後、V E提案実績通知書（別紙様式－6）を受注者に交付する。

6 V E提案の利用

V E提案については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合、提案者に通知することなく千葉市が発注する他の工事に、無償で利用することができるものとする。

ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、この限りではない。

7 責任の所在

発注者がV E提案を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、V E提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。

8 その他

V E提案に必要な書類等は、技術管理課ホームページよりダウンロードすること。

（別 表）請負代金額に対する低減額の割合

請負代金額に対する低減額の割合	加点
1 %未満	0
1 %以上 3 %未満	1
3 %以上 5 %未満	2
5 %以上 7 %未満	3
7 %以上 1 0 %未満	4
1 0 %以上	5

小数第4位四捨五入

○共同企業体の場合の計算方法

・業種 □□□

・××年度（入札公告年度の前年度）工事における上記業種による加点の合計

A社 4点、B社 3点

・出資比率 A：B＝60％：40％

$(4 \times 0.6 + 3 \times 0.4) = 3$ 点（小数点以下切り捨て）

（総合評価落札方式による技術提案に基づく施工）

第38条 受注者は、入札時に提示した技術提案に基づき確実に施工するものとし、技術提案による契約金額の変更は行わないものとする。ただし、「ICT活用工事」の対象工事において、受注者がICT活用工事を希望した場合は、「千葉市ICT活用工事実施要領（試行）」により、契約金額の変更を行うものとする。

（総合評価落札方式による技術提案が履行されない場合の措置）

第39条 受注者の責により入札時の技術提案が実施されていないと判断された場合は、ペナルティとして、工事成績評定を減ずることとし、未実施の技術提案の項目ごとに5点を減ずる。

（総合評価落札方式による技術提案に対する現場確認方法）

第40条 発注者は、受注者が入札時に提示した技術提案等の履行確認を目的に、当該提案内容に基づき「技術提案等実施状況確認シート」を作成するものとする。

2 受注者は、発注者から提示された「技術提案等実施状況確認シート」を確認したうえで、実施状況を記録するものとする。

（施工箇所が点在する工事の積算）

第41条 本工事は、施工箇所が点在する工事であり、共通仮設費及び現場管理費について標準積算と施工実態に乖離が考えられるため、稲毛海岸地区（稲毛海岸3丁目地内）、黒砂地区（黒砂4丁目地内外）、幕張本郷地区（幕張本郷3丁目地内）（以下「対象地区」という）ごとに共通仮設費及び現場管理費を算出する「施工箇所が点在する工事の積算方法の工事」である。

2 本工事における共通仮設費の金額は、対象地区毎に算出した共通仮設費を合計した金額とする。また、現場管理費の金額も同様に、対象地区毎に算出した現場管理費を合計した金額とする。

なお、共通仮設費率及び現場管理費率の補正（大都市、施工地域等）については、対象地区毎に設定する。

一般管理費については、対象地区毎ではなく、通常の積算方法により算出する。

（デジタル工事写真）

第42条 本工事で小黒板の電子化を行う場合は、工事契約後、デジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以下「対象工事」という。）とする旨を、施工計画書等により、申し出るものとする。実施に際しては、別紙1「デジタル工事写真の小黒板情報電子化に関する特記仕様書」によるものとする。

（情報共有システムの活用）

第43条 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換、共有し業務の効率化を図る、情報共有システムの試行対象工事である。実施に際しては、別に定める「千葉市情報共有システム試行要領」に基づき実施するものとする。

（工事完成図書の納品）

第44条 本工事は、電子納品の対象工事とする。電子納品は、成果を電子成果品として納品することをいい、「電子納品運用ガイドライン」に基づき作成するものとする。

2 成果品は、電子媒体で提出するものとし、提出にあたっては、電子納品チェックシステムによりエラーがないことを確認したのち、ウィルス対策を実施したうえで提出するものとする。

（週休2日制工事）

第45条 本工事は、「完全週休2日制（発注者指定型）」に取り組む工事である。実施に際しては、別に定める「千葉市週休2日制工事実施要領」に基づき実施するものとする。

（ICT活用工事）

第46条 本工事は、ICTの活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事「受注者希望Ⅱ型」の対象工事である。実施に際しては、別に定める「千葉市ICT活用工事実施要領（試行）」に基づき実施するものとする。

2 「ICT活用工事」とは、建設現場における生産性向上のため、以下に示す①～⑤の施工プロセスの各段階においてICTを活用する工事をいう。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

3 本工事においては、監督職員と協議が整った上記3①～⑤の全て又は何れかの段階でICT施工技術を活用することとし、施工範囲の全てで適用するが、対象とする工種について具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。

- 4 上記2①～⑤の施工プロセスを実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。
- 5 上記3①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。
- 6 千葉県土木工事施工管理基準に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。

(熱中症対策に資する現場管理費の補正)

第46条 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費補正の試行対象工事である。実施に際しては、別に定める「千葉県熱中症対策に資する現場管理費補正の試行要領」に基づき実施するものとする。

(建設現場の遠隔臨場)

第47条 本工事は、建設現場の遠隔臨場「受注者希望型」に取り組む工事である。実施に際しては、別に定める「千葉県建設現場の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき実施するものとする。

(建設キャリアアップシステム(CCUS)活用工事)

第48条 本工事は、建設キャリアアップシステム(CCUS)活用工事に受注者の希望により設定できる工事である。実施に際しては、別に定める「千葉県建設キャリアアップシステム活用に関する工事試行要領」に基づき実施するものとする。

(建設現場における快適トイレの設置)

第49条 本工事は、建設現場における快適トイレの設置を受注者の希望により設置できる工事である。実施に際しては、別に定める「千葉県快適トイレ設置試行要領」に基づき実施するものとする。

(工事書類限定検査)

第50条 本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と検査員の重複確認廃止及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「工事書類限定検査」の対象工事である。

- 2 工事書類限定検査とは、監督職員に提出した書類のうち技術検査時に下記の8書類に

限定して資料検査を行うものである。（作成する工事書類を限定するものではない。）

①施工計画書	⑤出来形管理図表
②施工体制（下請引取検査書類を含む）	⑥品質管理図表
③工事打合せ簿	⑦品質確認書
④品質規格証明資料	⑧工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

- ・「低入札価格調査制度対象工事」又は、「重点監督対象工事」
- ・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事

3 検査員が、公共工事の品質確保、安全性、効率性、環境への配慮等に鑑み、特に確認が必要と判断した場合には、上記８種類以外の書類に関しても検査の対象とする場合がある。

（脱炭素の推進）

第５１条 本工事は、建設段階での脱炭素の推進に受注者の希望により取り組むことができる工事である。実施に際しては、別に定める「千葉市公共工事脱炭素推進試行要領」に基づき実施するものとする。

（千葉開府９００年記念事業）

第５２条 本工事は、「千葉開府９００年記念事業」対象工事である。実施に際しては、別紙「千葉開府９００年記念事業に関する特記仕様書」によるものとする。

材 料

（道路用溶融スラグの品質等）

第1条 道路用溶融スラグ骨材は、加熱アスファルト混合物の細骨材に使用するもので、品質等は次によるものとする。

- 1 道路用溶融スラグは、千葉市所管の清掃工場において生成されたものを使用するものとする。
- 2 道路用溶融スラグは、日本産業規格（J I S A 5 0 3 2）「一般廃棄物、下水道汚泥又はそれらの焼却灰を溶融固化した道路用溶融スラグ」の規格に適合するものでなければならない。
- 3 道路用溶融スラグは、加熱アスファルト混合物の骨材全体重量比の10%以下で使用するものとする。
- 4 工事の施工にあたり、道路用溶融スラグの供給が不足することが予想できた場合・不足した場合は、使用合材を再生合材に変更できるものとする。
なお、その場合は、事前に監督職員と協議を行うものとする。
- 5 工事の施工にあたり、上記に定めのない事項については、共通仕様書第1編共通編、第6編道路編及び千葉市土木工事施工管理基準によるものとする。

（コンクリートのアルカリ骨材反応）

第2条 コンクリート及びコンクリート工場製品の使用にあたっては、「アルカリ骨材反応抑制対策（土木・建築共通）」（以下「抑制対策」という。）及びアルカリ骨材反応抑制対策（土木構造物）実施要領」（以下「実施要領」という。）によらなければならない。

なお、抑制対策及び実施要領と他の設計図書との間に相違がある場合は、抑制対策及び実施要領を優先する。

（品質規格証明資料）

第3条 工事に使用した材料の品質を証明する、試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を受注者の責任において整備、保管し、監督職員または検査職員の請求があった場合は速やかに提示しなければならない。

ただし、以下の材料の場合は、品質規格証明資料の提出が義務付けられているため、監督職員に提出しなければならない。

- ・ J I S 以外のレディーミクストコンクリート
- ・ 設計図書において試験を行うこととしている工事材料
- ・ アスファルト舗装の材料

(加熱アスファルト混合物)

第4条 受注者は、本工事に使用する加熱アスファルト混合物（以下「混合物」という）で、アスファルト混合物事前審査制度の認定を受けた混合所の混合物を使用する場合は、「アスファルト混合物事前審査における土木工事仕様書」及び「アスファルト混合物事前審査における品質管理基準」によるものとする。

(JIS 製品記号)

第5条 設計図書中の JIS 製品記号は、JIS の国際単位系 (SI) 移行（以下、「新 JIS」という。）に伴い、すべて新 JIS の製品記号に読みかえるものとする。ただし、旧 JIS に対応した材料を使用する場合は、読みかえずに使用できるものとする。

(1) JSWAS に規格がある材料については、同等以上の品質を有するものを使用する。上記以外の材料使用については、監督職員に協議するものとする。

(下水道の使用材料)

第6条 下水道の使用材料については、次の各号によるものとする。

(1) 人孔鉄蓋は千葉市型を使用し、合流管には〔合流〕、污水管には〔污水〕、雨水管には「雨水」表示とすること。一般的な使用区分は以下によるものとする。

①安全対策型とする。

②歩道及び車道幅員 5.5m 未満の一般市道：T=14t

③国、県道、指定された都市計画道路及び車道幅員 5.5m 以上の一般市道：T=25t

据付は、斜壁と枠との調整部の耐久性を保持するため、無収縮・高流動性・超早強性を有する調整モルタルを使用する。

④人孔蓋の据付において、受枠を固定する金具がない場合は、あと施工アンカー設置により受枠と固定すること。

⑤マンホール上部壁にインサートナット等がない場合において、アンカーの引抜強度は3本で106kN以上とする。アンカーボルトの強度は、材料の試験結果、穿孔径および穿孔深により確認するものとする。

⑥人孔蓋の据付は、千葉市下水道施設標準構造図（D-13、F-1、F-2）マンホールふた標準図（1）、（2）によるものとする。

⑦調整モルタルはふた据付作業後、道路開放が可能な強度（曲げ強度 3.5N/mm² 以上）に達してから道路開放するものとする。モルタルの強度については、供試体による試験により確認することを原則とするが、確認方法については監督員との協議により決定するものとする。

(2) 塩ビ製品は、ゴム輪継手を原則とする。

(3) 各材料については、下水道協会規格及び JIS 規格等公的機関の認定した工場で作

した製品を使用する。その他の工場で製作した製品は、工場検査を実施するものとし、同等以上の品質を有する事を合格の条件とする。

（作業土工）

第7条 埋戻材は、土質改良プラントで改良した土で埋戻すものとする。

締固めは、一層ごと（路床 20cm 以内、路体 30cm 以内）に敷き均し、監督職員の承諾を得た方法で締固めなければならない。

- （1）管路の埋戻しにあたっては、管の周りに山砂等が完全にいきわたるよう、管上 20cm のところまでは「つき棒」等を使用し、必要に応じて散水しながら埋戻しを施工するものとする。
- （2）埋戻しは、一層ごとにランマー、その他適切な締固め機械によって十分締め固めるものとする。

その他

（技術研修会の開催に対する協力）

第1条 受注者は、千葉市及び関係団体から当該工事現場を使用した技術研修会の開催に関する依頼を受けた場合は、これに協力するものとする。

（アンケート等調査の協力）

第2条 監督職員から各種制度の取組みに関するアンケート等の調査依頼があった場合、これに協力しなければならない。

（設計変更）

第3条 本工事において契約書の規定により行う、設計図書の変更手続きについては、千葉市請負工事設計変更等ガイドラインに基づき実施するものとする。

（防振ゴム等の品質確保）

第4条 東洋ゴム化工品(株)及びニッタ化工品(株)で製造された製品や材料を使用する場合は、第三者機関による品質を証明する書類を提出するものとする。

デジタル工事写真の小黑板情報電子化に関する特記仕様書

(デジタル工事写真の小黑板情報電子化について)

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事で小黑板の電子化を行う場合は、工事契約後、デジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事（以下「対象工事」という。）とする旨を、施工計画書等により、申し出るものとする。対象工事では、以下の 1 から 4 の全てを実施することとする。

1 対象機器の導入

受注者は、小黑板の電子化の導入に必要な使用機器については、写真管理基準「2-2 撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト (CRYPTREC 暗号リスト)」 (URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」) に記載している技術を使用していること。

また、受注者は監督員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。なお、使用機器の事例として、URL「<https://www.jcomsia.org/kokuban/software/>」記載の「デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア」を参照されたい。

ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

2 デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、第 1 項の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、写真管理基準「2-2 撮影方法」による。ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

3 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準に準ずるが、第 2 項に示す小黑板情報の電子的記入については、デジタル写真管理情報基準「6 写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

4 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品


受注者は、第3項に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下「小黑板情報電子化写真」という。）を、工事完成時に監督員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者はURL（<https://www.jcomsia.org/kokuban>）のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督員が確認することがある。

本特記仕様書は、「千葉開府 900 年記念事業」対象工事に適用する。

- 1 千葉開府 900 年記念事業（以下「記念事業」という。）とは、令和 8 年に千葉開府 900 年を迎えるにあたり、「千葉開府 900 年記念事業推進計画」の基本理念に基づき実施する事業のことをいう。
- 2 記念事業の実施内容は、受発注者間で協議のうえ決定することとするが、実施方針は以下のとおりとする。
 - （1）記念事業の実施内容は、工事看板へのロゴマーク・キャッチコピーの掲示を基本とし、「工事標示板、工事情報看板、工事説明看板」ごとにロゴマーク・キャッチコピーを掲示（参考：別紙 1）するものとする。
- 3 ロゴマーク・キャッチコピーの取り扱いについては、以下の各号のとおりとする。
 - （1）掲示するロゴマーク・キャッチコピーは、「別紙 1」に示すロゴマーク・キャッチコピーとする。
 - （2）掲示するロゴマーク・キャッチコピーの表示色はカラーを基本とする。また、掲示位置については「別紙 1」を参考に示すが、現場状況や工事看板内容などを考慮し、受発注者間の協議により決定すること。
 - （3）ロゴマーク・キャッチコピーの看板への表示方法は、看板と同時製作を基本とするが、印刷した紙やシール等での貼付（見栄え、耐久性等の工夫をすること。）もできるものとする。
 - （4）記念事業の実施は、記念期間終了の令和 9 年 3 月 31 日までとし、記念期間終了後は、原則、ロゴマーク・キャッチコピー等の掲示も終了とする。
- 4 記念事業の実施に伴う経費は、共通仮設費に含まれるものとし、改めて経費計上はしない。

ご協力をお願いします



 135mm

〇〇〇〇〇〇工事を
行っています

令和〇年〇月〇日まで
時間帯 9:00～17:00

時報

発注者 千葉市〇〇局 〇〇部〇〇課
電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

施工者 〇〇〇〇建設株式会社
電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

工事情報看板の標準様式



令和〇年〇月〇日頃から
〇月〇日頃まで
〇〇〇〇工事
を予定しています

道の相談室

<https://www.mlit.go.jp/road/soudan/>

048-600-4970(関東全域)

縣 〇〇〇〇 播 〇〇〇〇 局 〇〇〇〇 七 〇〇〇〇
電 話 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

施工者 ○○○建設株式会社
電話 ○○○-○○-○○○

工事説明看板の 標準様式



35mm

道の相談室

<https://www.mlit.go.jp/road/soudan/>

048-600-4970(関東全域)

千葉市〇〇局〇〇部〇〇課
 電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

施工者 ○○○建設株式会社
電話 ○○○-○○-○○○

※ロゴマーク・キャッチコピーの大きさは、縦・横135mmを目安とし、拡大・縮小する場合は文字が読み取れるサイズとする。
※ロゴマーク・キャッチコピーの位置は、上記を基本とする。

※ロゴマーク・キャッチコピーの位置は、上記を基本とする。

※ロゴマーク・キャッチコピーの大きさや掲示位置の変更が必要な場合は、監督員と協議すること。